

授業科目名	兵庫の教訓を踏まえた防災	担当教員	青田 良介
必修の区分	選択		
単位数	2単位		
授業の方法	講義		
開講年次	3年 第2クォーター		
講義内容	<p>日本は世界有数の災害大国である。兵庫県は1995年の阪神・淡路大震災をはじめとする災害から、多くの教訓を蓄積してきた。これらが防災の基調となっただけでなく、ボランティアや協働社会といった社会全体に関係する現象や仕組み等にもつながった。防災は社会の営みと密接に関わっていると云える。</p> <p>本講義では、但馬地方も含む兵庫や他所の災害事例を理解することにより、直後の災害対応はもとより、その後の復旧・復興、さらには、将来の災害への備えを体系的に学修する。災害に強い社会を作る上で、将来の中核的役割を担う世代が取り組むべき事項や心構えについても解説する。座学だけでなく、まち歩き、ワークショップ、ディスカッションの機会も取り入れ、自分事として防災を考える機会を提供する。</p>		
到達目標	<p>学生が災害に強い社会をつくる上で必要な知識を学ぶことで、災害時はもちろん、普段から主体的に防災を考え、積極的に行動する人材になるための素養を身につけることができる。</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 災害大国日本と防災の基本的な考え方 (7月29日3限) 2. 阪神・淡路大震災からの教訓 (7月30日1限) 3. 防災ワークショップ(避難所運営ゲーム) (7月30日2限) 4. 東日本大震災からの教訓 (7月30日3限) 5. 能登半島地震被災地の再建を考える (7月31日1限) 6. 防災教育と人材育成(クロスロードゲーム) (7月31日2限) 7. 豊岡市水害からの復旧・復興 (9月28日3限) 8. 災害時の行政トップの決断 (9月29日1限) 9. 北丹地震と災害に強いまちづくり(防災まち歩き) (9月29日2限) 10. 北丹地震と災害に強いまちづくり(グループディスカッション) (9月29日3限) 11. 将来の巨大災害に備える (9月30日1限) 12. 講義のまとめ(ワークショップ) (9月30日2限) 		
事前・事後学習	<ul style="list-style-type: none"> ・授業で学修したことに関するレポートを作成し、提出すること。 		
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・パワーポイントを中心に関連する資料を適宜配布する。 		
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・関心のある学生は、兵庫県が編集した「伝える 1.17は忘れない—阪神・淡路大震災20年の教訓—」を読むことを勧める。 		

成績評価の基準	・受講態度（授業中の議論への貢献）：20%、授業毎のレポート：40%、最終レポート：40%により評価する。
履修上の注意 履修要件	
実践的教育	該当しない。
備考欄	履修者が定員を超過した場合、累積 GPA により選考を行う。